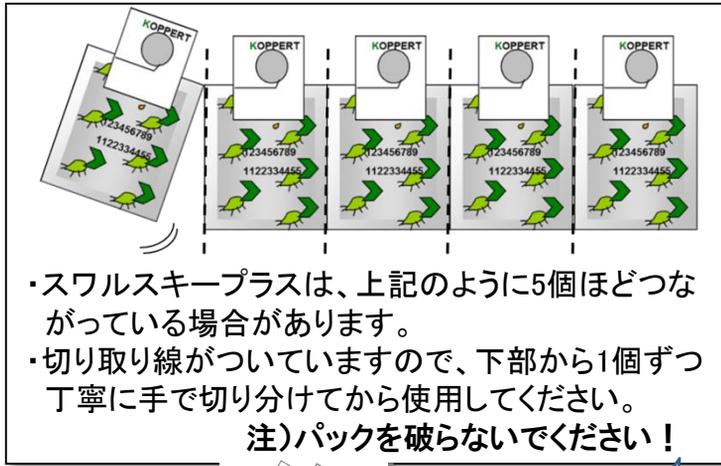
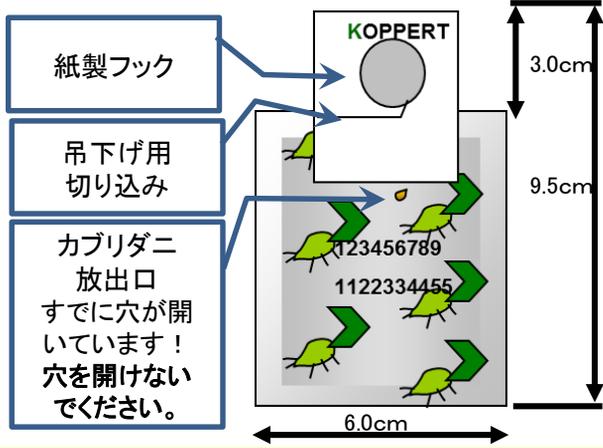


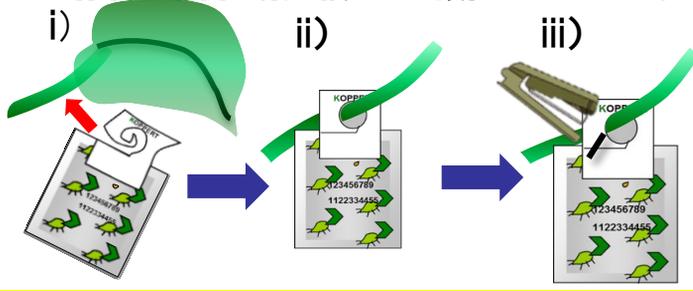
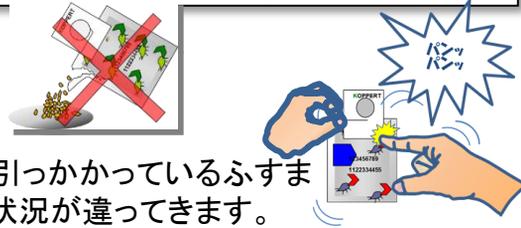
スワルスキープラス(パック)外観図



放飼(設置)方法

1. 放飼(設置)

- i) パック上部のカブリダニ放出口付近を指で弾いて、放出口に引っかかっているふすまを下方に落としてください。このひと手間でパック内への浸水状況が違ってきます。
 - ii) 紙製フックの吊下げ用切り込み部分を手で開きます。
 - iii) 作物の枝・葉柄・茎などを吊下げ用切り込み部分から輪の中に入れ、吊下げます。
 - iv) 湿度が高い場合や、薬剤散布後など、吊下げ部分が水に濡れて柔らかくなり、切れ込み部分が開いてしまう場合があるため、下図のようにホチキス等で補強すると落ちにくくなります。
- 注) 直射日光に当たるとパック内部が高湿・乾燥状態になり、スワルスキーの生存率が下がるので、作物の北側や葉の陰などに設置してください。**



放飼(設置)後の注意

スワルスキープラスは左図のような紙製の袋にパックが入っています。袋の中にパックから放出されたカブリダニが残っていることがあるので、パックの設置後に袋を開いた状態で圃場の邪魔にならないところに放置して、残りのカブリダニもすべて出られるようにしてください。

設置例: 右上から時計回りに、かんきつ、マンゴー、メロン、きゅうり

スワルスキー®

ナス・ピーマン等の作物はボトル放飼を推奨



スワルスキーカブリダニは、アザミウマの若齢幼虫やコナジラミの卵と若齢幼虫を捕食しますが、これらの成虫は食べられません。そこで、ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマが発生する圃場では、必ず粘着板の“ホリバーブルー”(←左図)との併用を行ないましょう。

天敵農薬に関する情報を定期的にお届けします。「アリストIPM通信」配信ご希望の旨と、ご住所、ご氏名、栽培作物、メールアドレス(携帯不可)を下記メールアドレスへお知らせください。
tenteki@arysta.com

<スワルスキープラス放飼後の殺虫剤について> 下記薬剤を推奨します。ご利用の作物で登録のあるものを利用してください

対象病害虫	影響の少ない殺虫剤 (※2. をご参照ください)	若干の影響あり (放飼数週間後、カブリダニの数が 葉当り1頭を超えてから使用する。連用しない)
アザミウマ類	マイコータル、ボタニガード水和剤、プレオ、マッチ、ベストガード、スタークル/アルバリン、カウンター、プリロツソ、ベネビアOD	バリアード、アクタラ、ダントツ、アドマイヤー
コナジラミ類	マイコータル、ボタニガード水和剤、スタークル/アルバリン、ベストガード、プリロツソ/ベリマーク、ベネビアOD	バリアード
アブラムシ類	チェス、ウララ、スタークル/アルバリン、ベストガード、プリロツソ/ベリマーク、ベネビアOD	バリアード
ハダニ類	ダニサラバ、スターマイト、カネマイト、ニッソラン	気門封鎖系薬剤(粘着くんなど:スポット散布)、マイトコーネ
ホコリダニ類	スターマイト、カネマイト	
ハモグリバエ類	プレバソン、プレオ、マッチ、トリガード、カウンター、ベネビアOD	
ヨトウ類 タバコガ類	プレバソン、プレオ、マッチ、フェニックス、ノーモルト、ファルコン、マトリック、ロムダン、BT剤、カウンター、ベネビアOD	
カイガラムシ類	アプロード、スタークル/アルバリン	

※1. 上記の薬剤以外は天敵に影響がある可能性があります。特にアディオン、アーデント、アグロスリン、アザミバスター、ロディー などの合成ピレスロイド剤や有機リン剤、カーバメート剤、ハチハチ、ピラニカ、サンマイト、ダニロン、アプロードエースなどは天敵に大きく影響するので使用できません。また天敵の放飼前にこれらを散布していた場合は、スワルスキーカブリダニ(以下:スワルスキー)がうまく定着しないことがあります。

※2. 果菜類のアザミウマ、コナジラミ防除でスワルスキーを効果的に使用するには、放飼前に害虫を徹底防除しておく必要があります。

<スワルスキープラス放飼後の殺菌剤について>

- ・モレスタン、ジマンダイセン、ビスダイセン、ベンコゼブ、マネージM、テーク、リドミルMZ、カーゼートPZ、フェスティバルM、クリーンサポート、ポリオキシシ、ポリペリン、ダイアメリットDF などの利用は なるべく避けることを薦めます。
- ・硫黄のくん煙は1回当り2~3時間以内で行なってください。

- ・パックにカブリダニ放出口が開いており、ここからカブリダニが出てきます。パックは破らないでください。
- ・スワルスキープラスは徐放性製剤となっています。既存のボトル製剤と比較して作物への分散が遅い傾向にありますので、早めの放飼を心がけてください。
- ・スワルスキーカブリダニは、トマトではうまく定着できないので、使用は控えてください。
- ・かんきつのミカンハダニ防除では、無加温・厳寒期等の活動が出来ない時期の使用は避けてください。
- ・摘葉で取り除いた葉などにスワルスキーが残っていることがありますが、病害虫管理の面からもハウス外に捨てて構いません。スワルスキーはすぐに増殖してくるので問題ありません。但し、放飼後2週間は摘葉しないでください。
- ・葉面散布剤の使用は可能ですが、機能性展着剤(まくぴか、ミックスパワー、ニーズ、ブレイクスルーなど)はなるべく使用しないことを薦めます。

スワルスキーと相性の良い微生物農薬 ~コナジラミ類、アザミウマ類に感染するカビの仲間~



「マイコータル」・「ボタニガード水和剤」

- ・スワルスキーにはほとんど影響が無く、施設栽培の野菜類で使用可能
(農薬散布回数にカウントされない)
- ・プレオ、マッチ、ネオニコチノイド系薬剤などと混用すると効果的



スワルスキーと併用できるハダニ類の天敵

「スパイカルEX」・「スパイカルプラス」

- ・スワルスキーと同じく定着しながらハダニを防除
- ・施設栽培の野菜類などで使用可能
- ・放飼後の管理(使用薬剤など)はスワルスキーに準じる

